

古川橋駅南広場等再編プロジェクト基本計画（案）

Ⅲ サン・ジョゼ広場編

令和8年●月

門真市

目次

0. はじめに	1
1. とりまく状況	
① 計画地周辺のまちづくりの動き	3
2. 現況および課題とポテンシャルの整理	
(1) 現況整理	
① 成り立ち	4
② 計画地の現況	5
③ 計画地の利用状況および関連計画における整備の方向性	7
(2) 課題および機会とポテンシャル	
① 課題	12
② 機会とポテンシャル	12
3. 社会実験と交通量調査による計画条件の整理	
① 実験の目的	13
② 実験内容	13
③ 実験状況	13
④ 実験風景	17
⑤ 効果検証	18
4. 整備コンセプト	24
5. 整備方針と実現に向けた方策	25
6. 整備計画	
(1) 整備の考え方	
① ケヤキの状況	26
② 空間構成ダイアグラム	27
(2) 計画図面	29
7. 整備スケジュール	31

00 はじめに

本市では令和5年5月に「古川橋駅周辺地区まちなかウォークアブル推進基本構想」を策定。全体コンセプトを「PLAY FURUKAWABASHI」とし、多様な場所・アクティビティ・シーンのあるPLAYFUL（遊び心のある）なまちとして、「笑いのたえないまち門真」の象徴となることを目指し、取組みを進めている。

本計画は同構想に位置づけた、「古川橋駅南広場等再編プロジェクト」のサン・ジョゼ広場編の基本計画である。検討に先立ち、令和6年11月に「PLAY FURUKAWABASHI Vol.2」（サン・ジョゼ広場を検証エリアとする社会実験）を実施。本計画は、同実験の効果検証結果をもとに作成したものである。



資料：古川橋駅周辺地区まちなかウォークアブル推進基本構想（全体コンセプト）

11/7.8.9.10 開催!!

PLAY FURUKAWABASHI

門真市では、京阪古川橋駅周辺において当エリアの未来ビジョンに基づき、「居心地がよく歩きたくなる」ウォークアブルなまちづくりをすすめています！
実際にまちなかを整備する際に、地域の方などのアイデアを取り入れ、よりよいプロジェクトにするために、一週間だけ実験的に計画を試す「社会実験 vol.2」を実施します！

Area 4 京阪古川橋駅南広場エリア
Area 1 古川橋駅前ロータリー
Area 2 京阪橋本駅前ロータリー
Area 3 サンジョゼ広場
Area 4 京阪古川橋駅南広場

Event Schedule イベントスケジュール

開催日	11/7	11/8	11/9	11/10
Area 1	10:00-15:00 16:00-19:00	10:00-15:00 16:00-19:00	10:00-15:00 16:00-19:00	10:00-15:00 16:00-19:00
Area 2	10:00-15:00 16:00-19:00	10:00-15:00 16:00-19:00	10:00-15:00 16:00-19:00	10:00-15:00 16:00-19:00
Area 3	10:00-15:00 16:00-19:00	10:00-15:00 16:00-19:00	10:00-15:00 16:00-19:00	10:00-15:00 16:00-19:00
Area 4	10:00-15:00 16:00-19:00	10:00-15:00 16:00-19:00	10:00-15:00 16:00-19:00	10:00-15:00 16:00-19:00

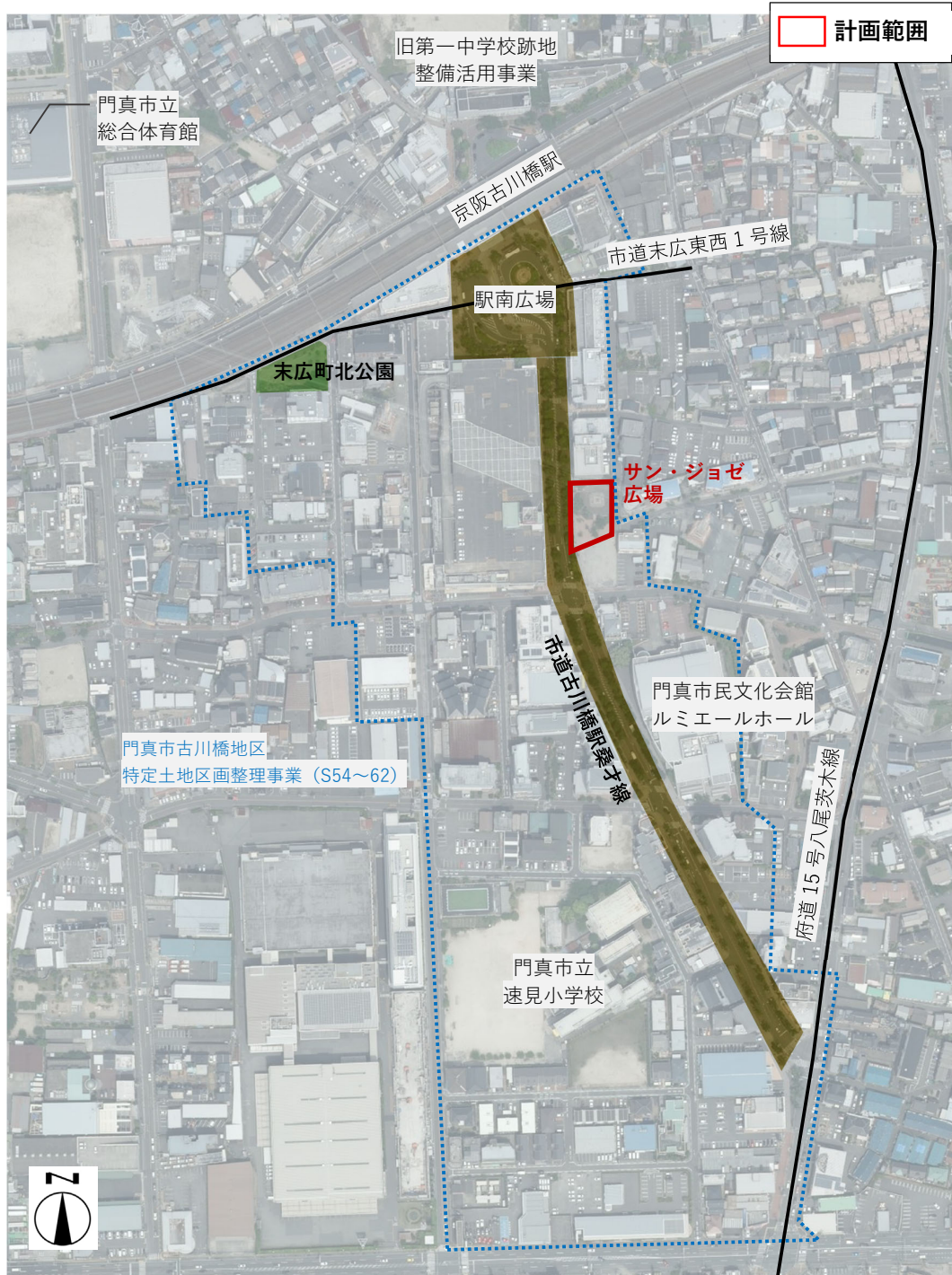
資料：PLAY FURUKAWABASHI Vol.2（フライヤー）



資料：PLAY FURUKAWABASHI Vol.2（実験の様子）

<計画範囲>

サン・ジョゼ広場（約 1,056 m²）を計画範囲とする。京阪古川橋駅の北側では、「旧第一中学校跡地整備活用事業」において大規模な交流広場や門真市立文化創造図書館 KADOMADO 等の整備が進められており、来街者の増加が見込まれている。西側は「古川橋駅南広場等再編プロジェクト基本計画」の対象プロジェクトである市道古川橋駅桑才線に面している。また、その北側には同プロジェクトの対象である古川橋駅南広場があり、北西側には「古川橋駅周辺地区まちなかウォークアブル基本計画」の対象プロジェクトである末広町北公園が位置する。なお、サン・ジョゼ広場は「門真市古川橋地区特定土地区画整理事業」(S54～62)により整備されたものである。



01 とりまく状況

① 計画地周辺のまちづくりの動き

サン・ジョゼ広場周辺では、エリア再生に係る複数の取組が段階的に進められている。特に、駅北側では広場やタワーマンションなどの整備が進行しており、滞留や交流の場としての機能形成が進みつつある状況にある。

また、駅南側に位置する本エリアにおいては、北側で進む交流広場や交通広場の効果を面的につなげるためにも、南北の空間や動線が相互に連携し、古川橋駅を挟んだ南北での一体的なまちの魅力向上を目指す。



旧第一中学校跡地活用事業

《将来構想図》



門真市立文化創造図書館 KADOMADO のイメージ



資料：広報かどま 令和6年9月号

タワーマンション等のイメージ



資料：古川橋駅周辺地区未来ビジョン

交流広場のイメージ



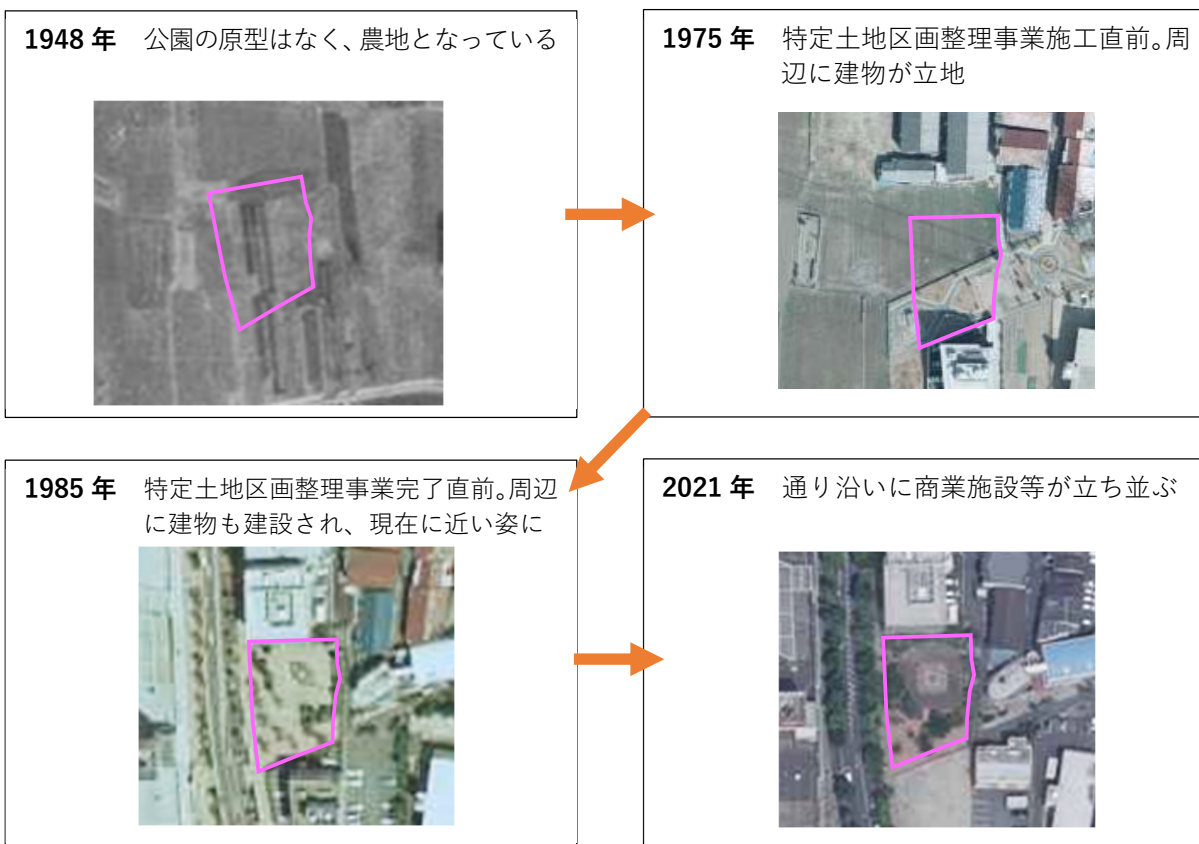
資料：広報かどま 令和6年9月号

0 2 現況および課題とポテンシャルの整理

1 | 現況整理

① 成り立ち

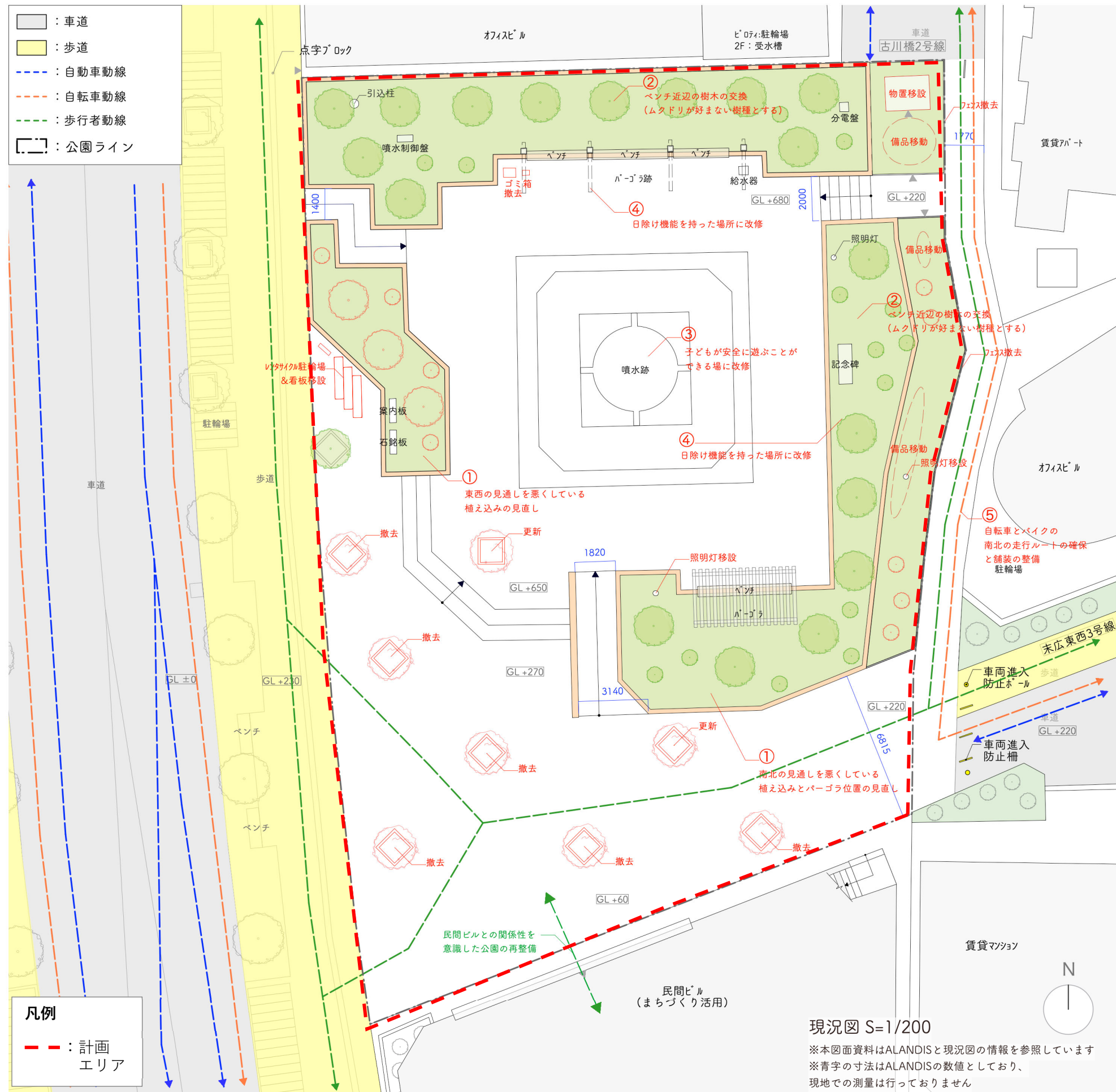
戦後は農地だったが、1979～87年に門真市古川橋地区特定土地区画整理事業が施行され、サン・ジョゼ広場が整備された。その後、周辺に商業施設等が立ち並んだ。



資料：空中写真（国土地理院）

② 計画地の現況

名称 : 名称: サン・ジョゼ広場
 所在地: 門真市末広町 43
 計画面積: 約 1,056 ㎡



③ 計画地の利用状況および関連計画における整備の方向性

門真市パークイノベーション計画の公園の利用実態調査(令和3年)によると、計画地は第三中学校区内に位置している。調査結果によると、利用者数は「31人/日」である。主な利用者層は“子連れの親子”と“大人(20～30代)“、主な利用内容は”休憩“、“散歩”、“飲食”、“おしゃべり”であり、主な利用時間帯は平日、休日ともに”8時～18時(主に午後利用が多い)“である。

サン・ジョゼ広場は、周辺に商業施設が集積し、人通りの多い通りに面しており、集客性や回遊性が高い立地特性を有している。一方で、その立地ポテンシャルが十分に引き出されているとは言い難く、多様な利用が生まれにくい状況にある。

市内でも特に人通りの多いエリアに立地する公園の特性を活かし、イベント利用の促進等を通じて駅周辺地域のにぎわい向上につなげるため、「機能の特化(にぎわい型)※」の公園として機能を位置付けている。

※機能の特化(にぎわい型)の具体的方策として、「児童向け遊具の設置」「広場(ボール遊びなど)」「イベント、地域行事」が示されている。



資料：門真市パークイノベーション計画 利用実態調査結果【第三中学校区】

同計画の市民意向に関するアンケート等の調査結果を踏まえ、計画を検討する。16歳以上の市民を対象にした、“市民アンケート”および子どもを対象とした、“子どもアンケート”の2種類にて行われた。調査結果を下記にて抜粋する。また、実施概要は以下の通りである。

<市民アンケート実施概要>

■調査対象者：市内在住の16歳以上の市民から無作為抽出【1,500名】

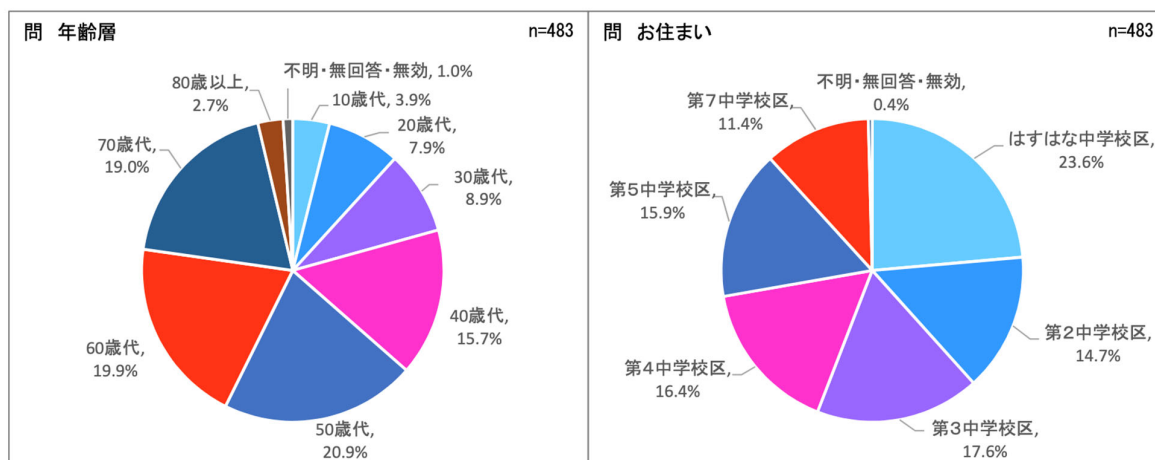
■調査方法：郵送配布・回収による調査

■調査時期：調査票の投函：令和3（2021）年5月28日（金）

回収期限：令和3（2021）年7月5日（月）

■回収率：有効回答数483票（回収率32.2%）

■回答者属性



<子どもアンケート実施概要>

■調査対象者：市内全14小学校及び6中学校を対象に、小学校低学年（2年生）、小学校高学年（5年生）、中学生（2年生）を対象として実施

■調査方法：各学校を通じた直接配布・回収による調査

■調査時期：令和3（2021）年5月～6月

■回収結果：小学校低学年（2年生）：407票

小学校高学年（5年生）：473票

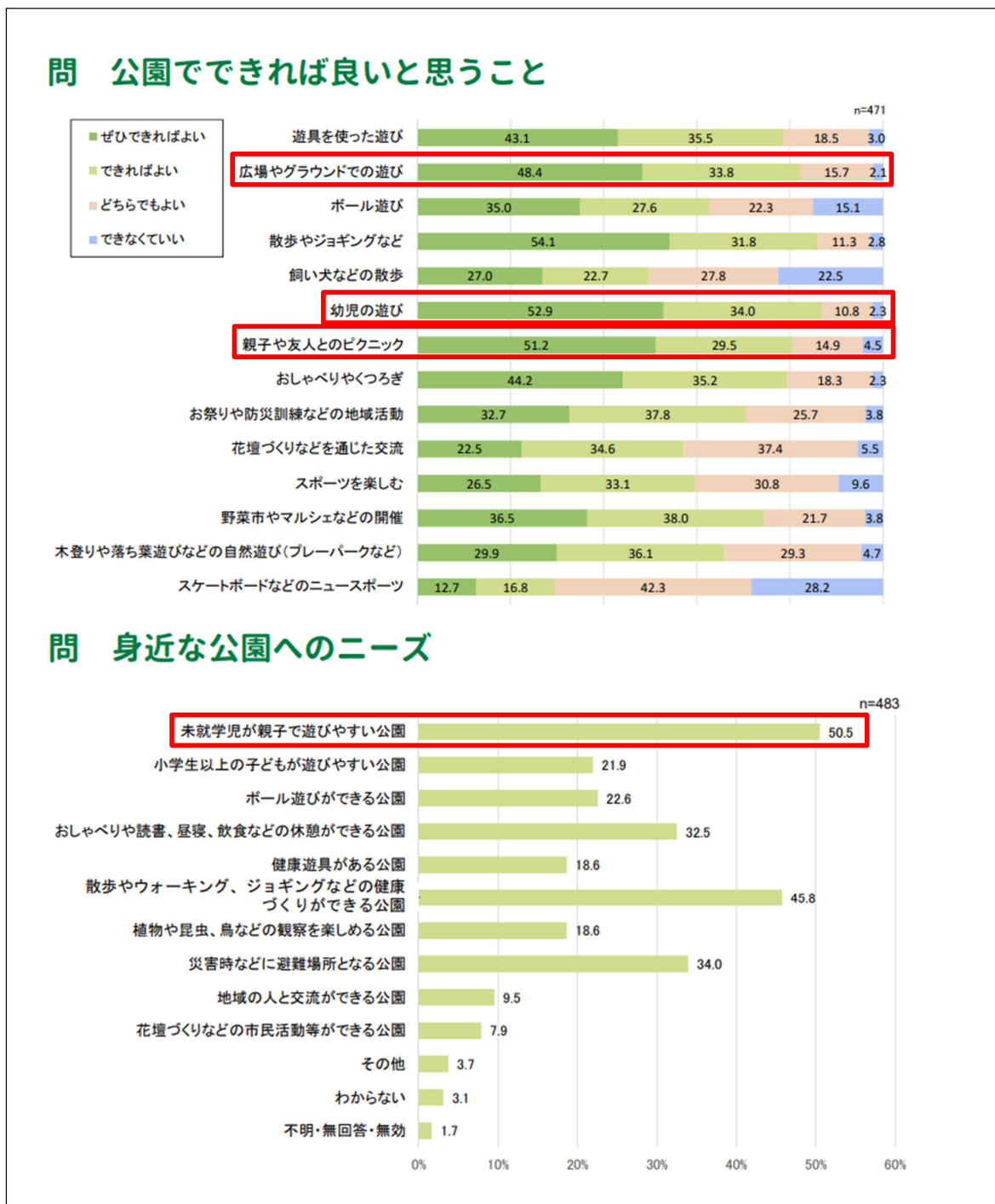
中学校（2年生）：195票

合計 1,075票

資料：門真市パークイノベーション計画 市民意向に関するアンケート

公園に対する市民アンケート調査では、「**幼児の遊び**」や「**広場・グラウンドでの遊び**」など、子どもの**遊び場の充実**を求める意見に加え、「**親子や友人とのピクニック**」といった**滞留・交流を伴う利用**への要望が多く寄せられた。

また、身近な公園に求めるものとしては、「**未就学児が親子で遊びやすい公園**」を望む声が多く、**子育て世代が安心して過ごせる公園**へのニーズが高いことが確認された。

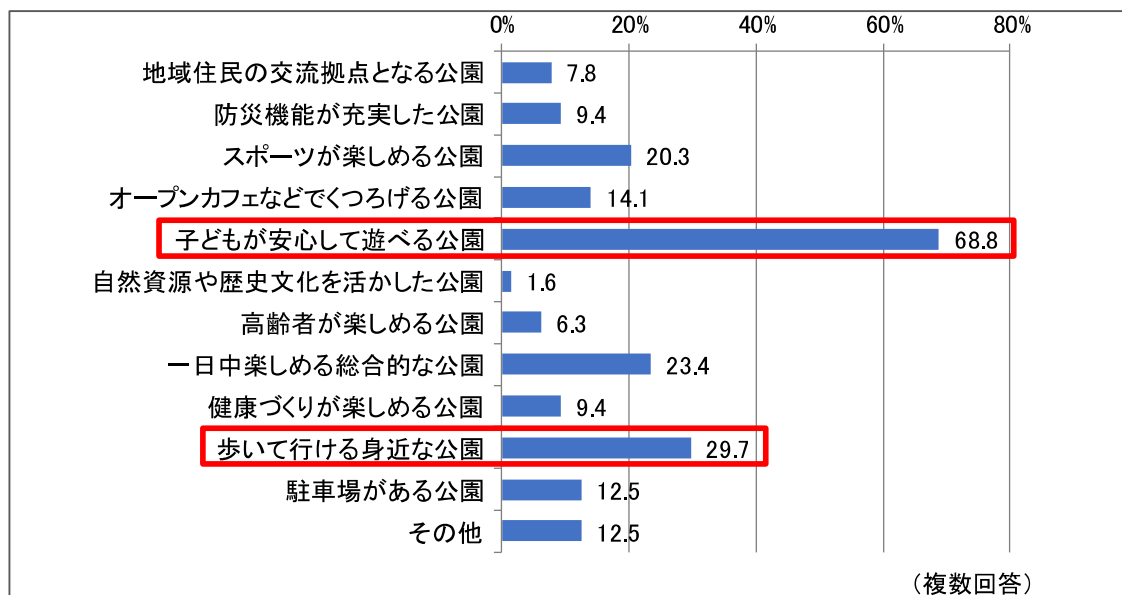


資料：門真市パークイノベーション計画 P43～ 市民意向に関するアンケート

●子育て施設等利用者ヒアリング調査結果

問：今後の門真市の公園整備に期待すること

「子どもが安心して遊べる公園」が最も多く、次いで「歩いて行ける身近な公園」が多い結果となった。



資料：門真市パークイノベーション計画 市民意向に関するアンケート

【みどりに関する市民意向のまとめ・考察】

公園利用者および子育て施設等の利用者を対象としたヒアリング調査からは、公園における遊具やトイレ等の設備面に関する課題が指摘されるとともに、子どもたちが安心して遊べる公園整備を求める声が多く確認された。

これらの結果を踏まえ、子どもが安心して遊ぶことができ、親子が心地よく過ごせる空間の創出が求められていると考えられる。

【民間団体等による公園利用】

■公園のイベント利用

サン・ジョゼ広場は、民間事業者等が企画・主催する、20年以上の歴史を有するイベントの開催地として、これまで複数回にわたり活用されてきた。



本公園は地域におけるイベント開催の受け皿として一定の認知を持っており、今後の公園整備や利活用を検討する上でも、過去の活動実績を踏まえた計画とすることが有効である。

■周辺施設での取り組み

アトリアは、光亜興産本社ビル1階のアトリアガーデンを拠点として、「子どもエリアマネジメント」の実施や地域交流イベントの開催、将来のまちづくりを考える「未来社会塾」の運営、さらには大学等と連携した産官学連携のまちづくり研究など、多様な取組を継続的に展開している。

これらの活動を通じて、子どもの学びや居場所の創出、地域交流の促進、市民参加型のまちづくりの実践など、地域が抱える社会課題の解決に取り組んでいる。

※アトリア：子どもを中心に、地域住民・学校(門真市立速見小学校、門真市立第三中学校)・大学(大阪電気通信大学)・企業などと連携しながら、地域が抱える社会課題の解決に取り組むエリアマネジメントの担い手。



今後のエリア整備を検討するにあたっては、これまでに積み重ねてきた活動実績や地域連携の経験を活かしながら、子どもエリアマネジメントでの取り組みを発展させていく計画とすることが有効である。

2 | 課題および機会とポテンシャル

① 課題

【観察調査による意見】

- ・ 植え込みの植物が繁茂しており、一部見通しが悪く、防犯性や安心感の面で課題がある。
- ・ 噴水は現在機能していないため、利用しづらいスペースとなっている。
- ・ 公園内は緑陰が少なく、またベンチの数に対してもパーゴラが1基のみと、滞留空間の快適性が十分に確保されていない。

【子どもエリアマネジメントでの意見】

- ・ 餌やり行為により、鳩などの鳥が必要以上に集まることによる糞被害が見られる。
- ・ 植え込みへのゴミのポイ捨てが散見され、美観や衛生面での課題がある。
- ・ 園内への自転車やバイクの進入があり、危険を感じる場面がある。

② 機会とポテンシャル

- ・ 植え込みに囲まれた構成となっており、外部からの視線を適度に遮ることで、プライバシーや居心地の良さが確保されている。
- ・ ベンチに座って休憩する利用者が見られ、滞留空間として一定の利用がなされている。
- ・ 舗装はレンガやタイルなどの現在では高価な素材が用いられている。
- ・ 隣接する民間ビル(アトリアガーデン)との位置関係から、将来的には一体的な利用や連携が可能な立地条件を有している。
- ・ アトリアガーデンを拠点に、社会課題の解決を目的とした子どもエリアマネジメントの活動が行われている。隣接する公園と連携することで活動の場を広げ、より多様な取組へと展開できるポテンシャルを有している。

03 社会実験と交通量調査による計画条件の整理

① 実験の目的

- ・利用者が安心・安全に遊び、滞留できる空間として機能するかを検証する。
- ・地域プレイヤーの発掘および継続的な関係構築の可能性を確認する。
- ・想定される業態等を含め、潜在的な商業ニーズを把握する。

② 実験内容

- ・公園と周辺施設を一体的に活用し、にぎわいが生まれるかを確認した。
- ・地域プレイヤーと連携し、店舗の出店を通じて商業ニーズを検証した。
- ・子どもが安全に楽しむことができる設えとなっているかを確認した。

③ 実験状況

実施項目	11月7日 (木)	11月8日 (金)	11月9日 (土)	11月10日 (日)
滞留空間の設置	● 11:00～ 18:00	● 11:00～ 18:00	● 11:00～ 18:00	● 11:00～ 18:00
出店ブースの設置	—	● 11:00～ 18:00	● 11:00～ 18:00	—

④ 実験風景

<周辺施設との一体利用>



<安全に休憩ができる設え>



<親子で安心して楽しめる場>



⑤ 効果検証(古川橋ウォークアブル社会実験 PLAY FURUKAWABASHI Vol.2 効果検証より抜粋)

調査方針の設定

実験の目的を踏まえ、3つの調査方針を設定した。

- 調査方針1 公園と周辺施設の一体利用により、賑わいが生まれるかの確認
- 調査方針2 飲食店や物販店舗による商業ニーズの確認
- 調査方針3 子どもが安全に楽しむことができる設えとなっているかの確認

調査結果

会場来訪者を対象に行った来場者アンケートや中学生向けアンケートおよび出店者向けアンケート、観察調査等からわかった事を以下にまとめる。

調査方針1 公園と周辺施設の一体利用により、賑わいが生まれるかの確認

◆結果

- ・バリアフリー動線の計画が不十分な箇所があり、東のテント前(噴水周辺)を中心に一部、車いす利用者や身体の不自由な人が通りにくそうにしている箇所があった。
- ・公園(屋外)と建物(屋内)へのガーランドの設置や、南に隣接する民間ビル1階を開放するなど、空間の一体的利用を試行したところ、屋内外ににぎわいを生み出す結果となった。

◆整備の方向性

周辺施設と一体的に利用可能な公園空間の整備を図る

◆分析と計画上の留意点

- ・車いす利用者や身体の不自由な利用者の動線に配慮し、園内中央部の段差を解消することで、日常利用およびイベント利用の双方における利便性の向上を図る。
- ・周辺施設と連携した利用を促進するため、既存樹木の伐採や更新などの整理等を行い、柔軟に活用可能なまとまりのある空間を確保する。

◆結果

- ・地域のプレイヤーが主体となり、大阪電気通信大学や門真市立速見小学校など地域のプレイヤーが連携して賑わいを創出していた。
- ・売り上げ目標については、アンケートで「達成できなかった」と回答した出店者が多かった。桑才線の通り沿いから奥まった場所に屋台を配置したところ、道からの視認性がよくないとの意見が出店者からあった。
- ・植え込みへのポイ捨てや鳩の餌やりが美観的に気になるという声があった。

◆整備の方向性

美観の維持とにぎわいの見える化を図る

◆分析と計画上の留意点

- ・桑才線沿いの植栽については、視界を遮らない背の低い草花へと更新し、通りからの見通しを向上させるとともに、ゴミのポイ捨ての抑制につなげる。

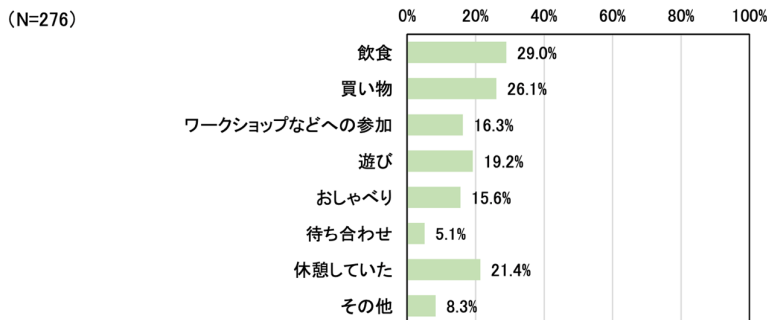
<来場者アンケート>

“⑤”効果検証に基づく方針策定を目的として、社会実験において来園者を対象としたアンケート調査を実施した。

問 18. どのような過ごし方をしましたか (MA)

- ・「**飲食**」(約 30%) が最も高く、次いで「**買い物**」(約 25%)、「**休憩していた**」(約 20%) の順。

	票数	構成比
飲食	80	29.0%
買い物	72	26.1%
ワークショップなどへの参加	45	16.3%
遊び	53	19.2%
おしゃべり	43	15.6%
待ち合わせ	14	5.1%
休憩していた	59	21.4%
その他	23	8.3%
回答数	276	100.0%



【その他の回答】

◆結果

- ・来園者は8日(金)105人に対して、9日(土)930人と9日の方が825人多い結果となった。理由としては、飲食や物販、子どもの遊び場など実施したコンテンツの幅広さと、休日は学校が休みのため子どもが訪れやすかった点が挙げられる。
- ・「居心地の良さ」について、回答者251人のうち「とても居心地がよかった」が97人/251人(38.6%)、「まあまあ居心地がよかった」が148人/251人(58.9%)と回答した。
- ・「リニューアルされるとしたら、どのような広場になるとよいと思いますか」に対して、「イベントやマルシェがあるといい」と回答した人が125人/308人(40.6%)、「0歳から10歳の子どもが安心して遊ぶことができる遊び場」と回答した人が120人/308人(39.0%)、「大人もくつろげる空間(ベンチ等)」と回答した人が111人/308人(36.0%)いることがわかった。
- ・ボードアンケートの遊びコンテンツの中で最も回答数が多かったのは「あそべるふんすい」53人/425人(12.5%)であった。2位は「ボルダリング」44人/425人(10.4%)、3位は「かっこいい滑り台」41人/425人(9.6%)、4位は「ユニーク遊具」40人/425人(9.4%)という結果になった。

◆整備の方向性

親子で安心して楽しめる空間の整備を図る

◆分析と計画上の留意点

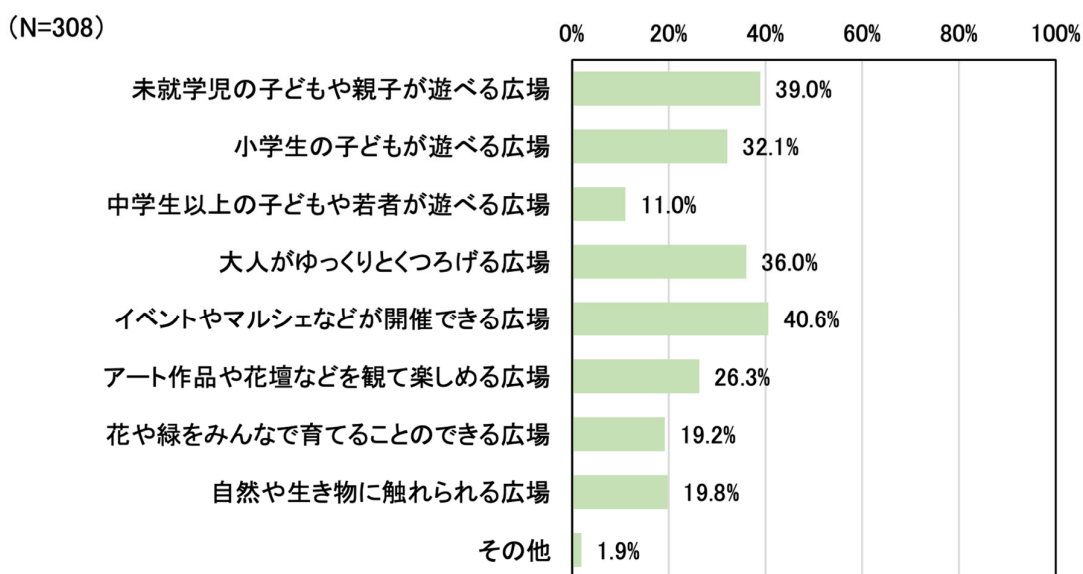
- ・安全面に配慮し、既存の噴水跡は撤去し、安全性の高い空間へ再構成する。
- ・自転車およびバイクの動線と歩行者動線(押しチャリゾーン)を分離し、歩行者が安心して公園を利用できる動線計画とする。

<来場者アンケート>

“⑤”効果検証に基づく方針策定を目的として、社会実験において来園者を対象としたアンケート調査を実施した。

公園に求める機能としては、「イベントやマルシェなどが開催できる広場」（約 40%）が最も多く、次いで「未就学児の子どもや親子が遊べる広場」（約 40%）、「大人がゆっくりとくつろげる広場」（約 35%）、「小学生の子どもが遊べる広場」（約 30%）の順となった。

	票数	構成比
未就学児の子どもや親子が遊べる広場	120	39.0%
小学生の子どもが遊べる広場	99	32.1%
中学生以上の子どもや若者が遊べる広場	34	11.0%
大人がゆっくりとくつろげる広場	111	36.0%
イベントやマルシェなどが開催できる広場	125	40.6%
アート作品や花壇などを観て楽しめる広場	81	26.3%
花や緑をみんなで育てることのできる広場	59	19.2%
自然や生き物に触れられる広場	61	19.8%
その他	6	1.9%
回答数	308	100.0%



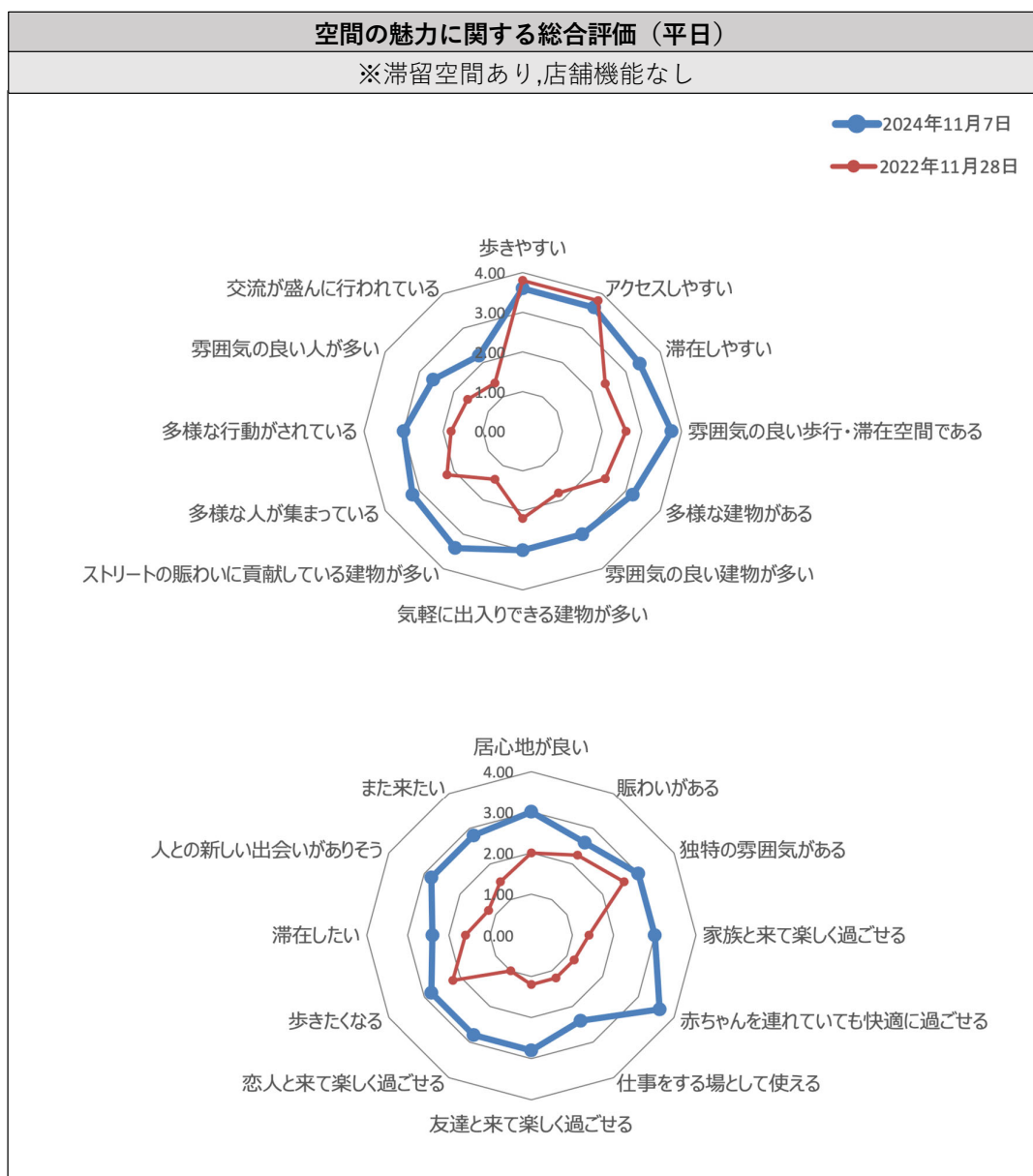
<居心地の良さに関する調査>

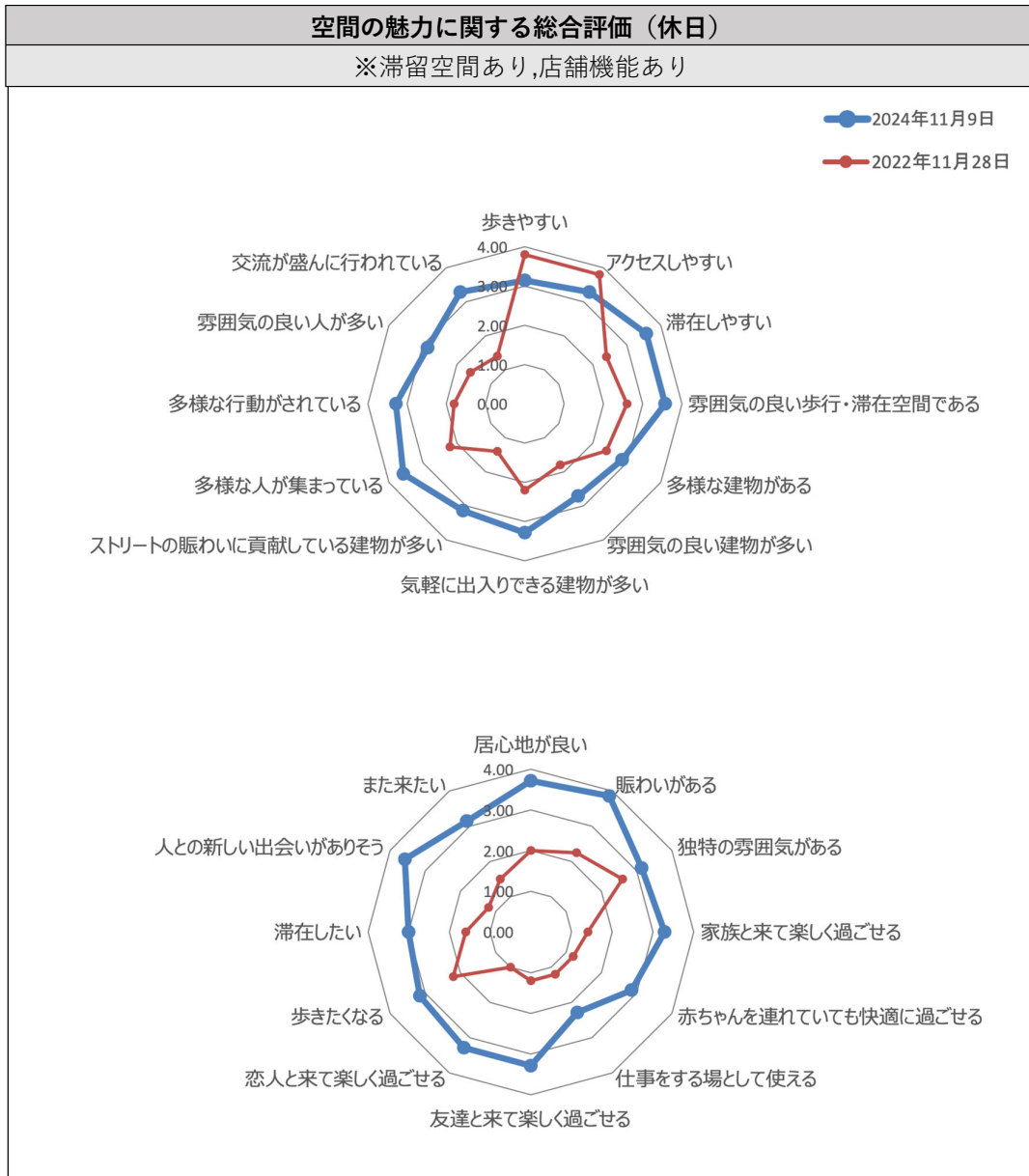
国土交通省で開発された、「まちなかの居心地の良さを測る指標（※）」を用いて、未広町北公園の居心地の良さ・歩きやすさを評価した。社会実験前と社会実験中に実施した調査結果をチャートにて表す。詳細は以下の通りである。

社会実験において、ベンチの設置等により居心地の良さを高めるとともに、多様なコンテンツを導入した結果、それらに魅力を感じる幅広い利用者の来訪が見られた。

その結果、平日・休日のいずれにおいても、公園の魅力および環境に関する総合評価は大幅に上昇した。休日の滞留空間に加えて店舗機能の効果もあり、滞在者数は1人から46人、交流者数は0人から41人という変化を確認できた。

※まちなかの居心地の良さを測る指標：居心地が良く歩きたくなるまちの形成に向けて、人間らしい視点で居心地の良い空間を評価するツールとして、国土交通省が作成したものである。





■人々の活動量※

滞在者数：5.3人(社会実験前) →48.8人(社会実験中,休日)

交流者数：2.7人(社会実験前)→36.4人(社会実験中,休日)

※滞在者数：3分間以上その場に留まっていた人数

交流者数：2人以上で滞在していた人数

■調査日

(社会実験前) 令和4年11月28日(月) 14:50~17:45 天候：晴れ 気温：20℃ 評価者5名の平均値

(社会実験中) 令和6年11月7日(木) 15:09~16:15 天候：曇り 気温：13~14℃ 評価者5名の平均値

令和6年11月9日(土) 15:00~16:30 天候：晴れ 気温：18~20℃ 評価者5名の平均値

まちのリビングパーク

～子どもの笑顔が集う居場所～

植栽帯や高木、段差による囲われ感のある空間構成を活かしつつ、周辺施設との一体的な利用を図る。植え込みの植栽は低木・地被類へと更新し、見通しよく、通りから賑わいが感じられる公園へと再編する。自転車・バイクと歩行者の動線を明確に分離し、親子が安心して過ごせる環境を整える。駅南広場から桑才線へとほどよく開かれた公園空間を実現する。

05 整備方針と実現に向けた方策

整備方針1 すでにあるものを活かした、安心して過ごせる公園の形成

方策① 公園と周辺施設・道路空間の一体的な空間構成

公園と隣接する民間ビルの敷地および桑才線沿いの通りをひと続きの場所として捉え、イベント時にはイベントスペースとして、日常時には人が滞留する場として使い分けが可能な一体的な空間構成とする。桑才線沿いの植栽帯の一部を低木や地被類とすることで、道路側から中の様子が見えやすくなり人の立ち寄りやすい、囲われている安心感を保ちつつ通りに開かれた空間とする。



方策② 歩行者優先の動線と空間の使い分け

歩行者、自転車、バイクの動線を明確に区分し、通り抜ける人が滞留空間に交錯しない配置計画とするとともに、公園内への自転車・バイクの進入を抑制する。通路幅の調整やボラードの設置により、歩行者が安心して滞在できる歩行者優先の空間構成とする。

方策③ 安心して過ごせる、誰もが立ち寄りやすい空間づくり

既存の植栽帯や高低差を背景として活用し、車道や歩道から心理的な距離を確保した、落ち着いて過ごせる滞留空間を配置する。ベンチやパーゴラ等は、背後に植栽や構造物を配しつつ、周辺建物の大きさに配慮した高さ・配置とすることで、圧迫感のない安心感のある居場所を形成する。



日除け機能を備えたパーゴラとベンチのイメージ

整備方針2 公民連携によるにぎわい創出に向けた使いやすい空間の形成

方策① 日常利用とイベント利用が両立し、継続的に使われ続ける公園づくり

現状の噴水をフラットな設えにすることで、イベント等、様々な用途で活用できる空間として整備する。



防災イベントのイメージ

06 整備計画

1 | 整備の考え方

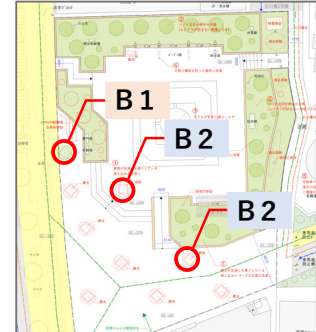
① ケヤキの状況

サン・ジョゼ広場内のケヤキは桑才線のケヤキ並木に隣接しており一体的に緑が感じられる空間となっているが、近年は鳥害の発生対策としての強剪定、樹勢衰退により伐採される等の課題を抱えている。ケヤキは地域の重要な資源であるため、樹木医による外観診断調査等を実施した。

■調査概要

サン・ジョゼ広場に設置されている樹木の植枿は、公園舗装面に設けられた植枿である。本調査では、保全の可能性が高いと判断される公園舗装面植枿の樹木3本を対象に、外観診断調査を実施した。

外観診断調査においては、樹木の状態を A、B1、B2、C、その他（伐採済み等）の区分により判定した。



※サン・ジョゼ広場樹木調査箇所

■調査結果

サン・ジョゼ広場植枿の全3本の調査の結果は下表のとおり。一般的な再編において、保全される B1 以上の樹木は1本、除去・更新とする B2 以下の樹木は2本だった。

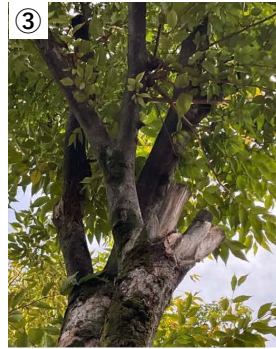
	調査結果			
	A 健全か健全に近い	B1 注意すべき被害が見られる	B2 著しい被害が見られる	C 不健全
サン・ジョゼ広場	—	1本	2本	—

<不健全な樹木の例>

幹の樹皮枯死欠損



切り口からの腐食



根元舗装の雨水遮断による開口空洞



※①～③はサン・ジョゼ広場、④は桑才線にて撮影

■現状の主な課題

- ・剪定した枝の切り口から腐朽が進行しているものもある。
- ・支柱の食い込みにより、幹の樹皮に枯死・欠損が生じている。

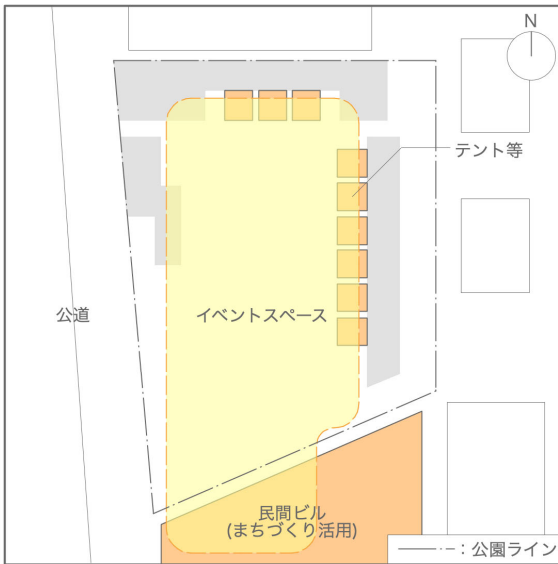
■計画上の留意点

- ・樹木の倒木による被害防止の観点から、診断結果が B2 の樹木は更新対象とし、B1 の樹木は残置とする。
- ・剪定を行う際は、枝の切り口から腐朽が進行しないよう、適切な位置での剪定を行う。

② 空間構成ダイアグラム

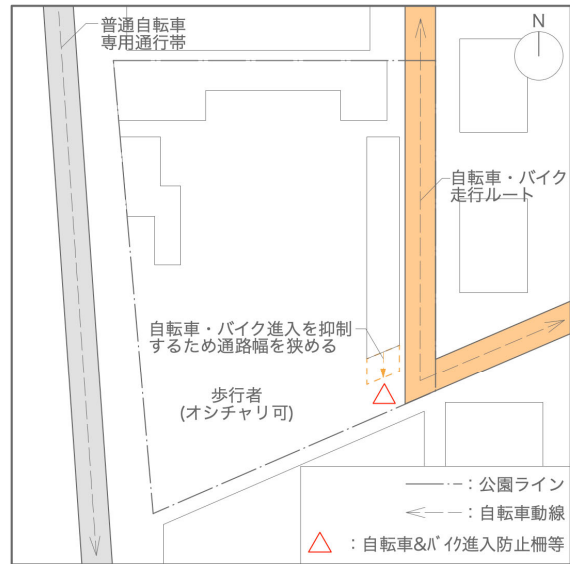
Point 1

公民連携による一体的な利用



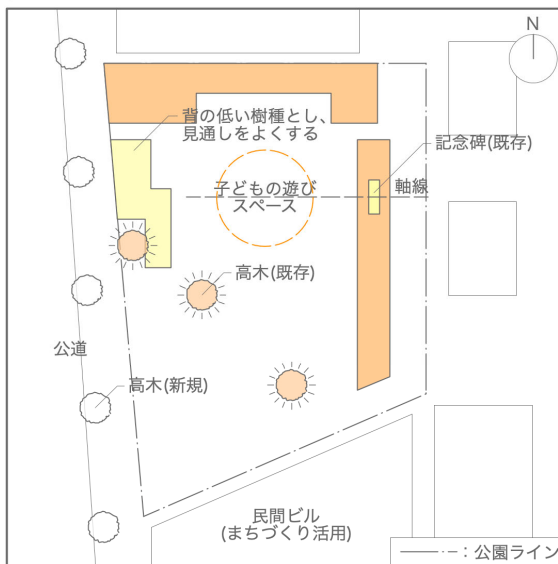
Point 2

公園利用者の安全確保のための自転車&バイクの誘導



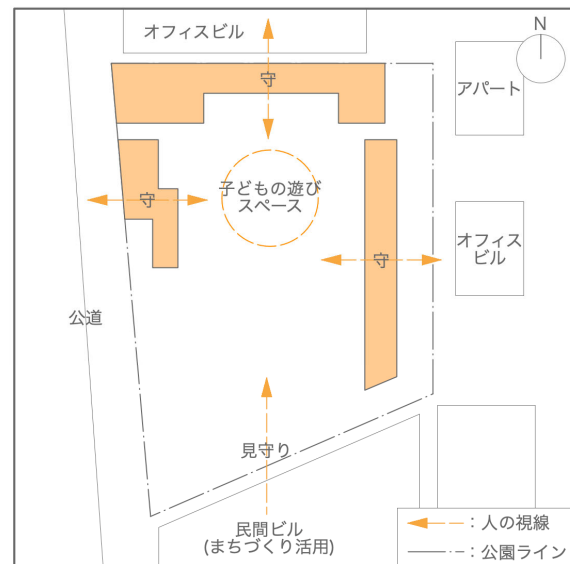
Point 3

見通しと安心感に配慮した植栽計画



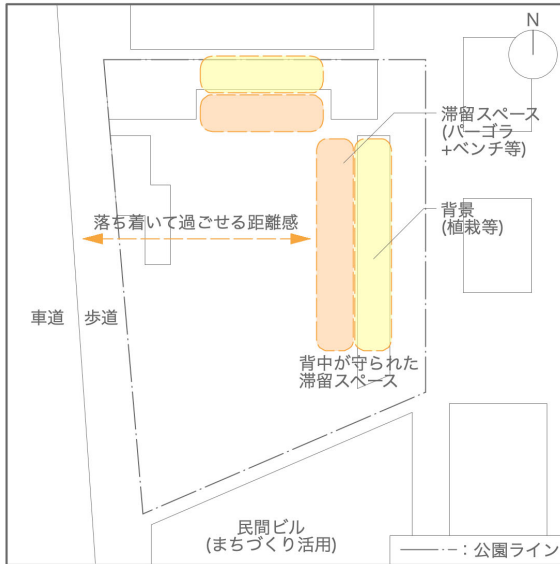
Point 4

子どもが安心して遊べるプライバシー計画



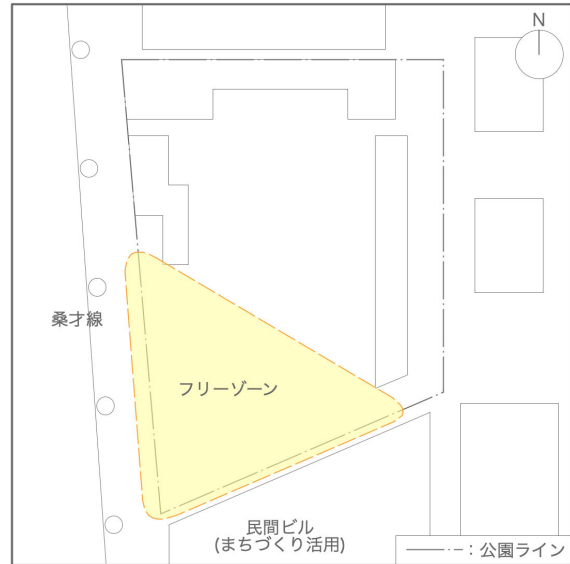
Point 5

落ち着いて過ごせる滞留空間の配置



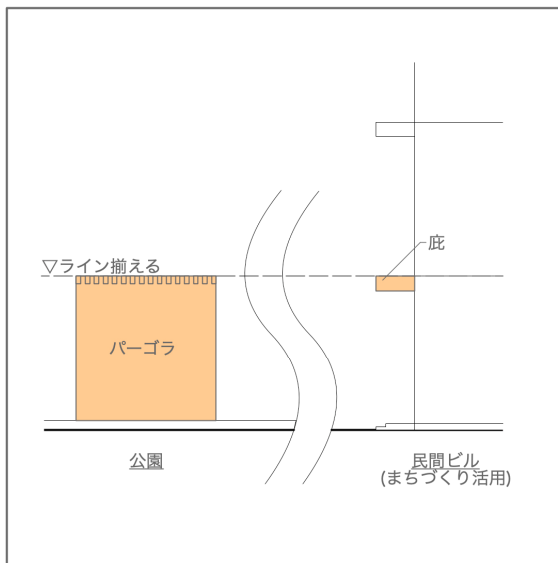
Point 6

桑才線と連続するフリーゾーンの設定



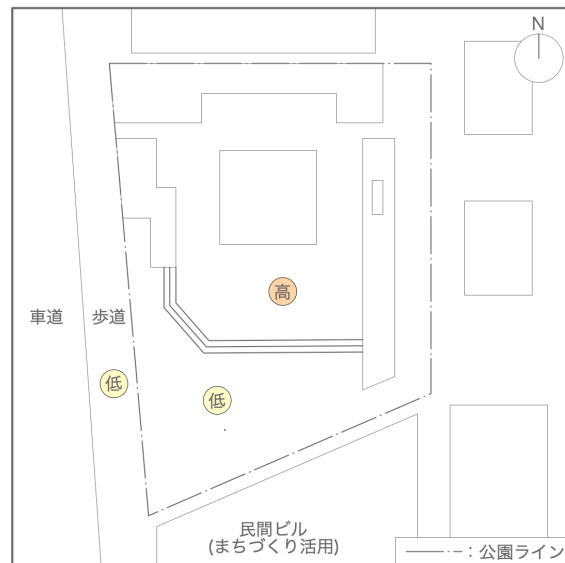
Point 7

周辺建物と調和した空間デザイン

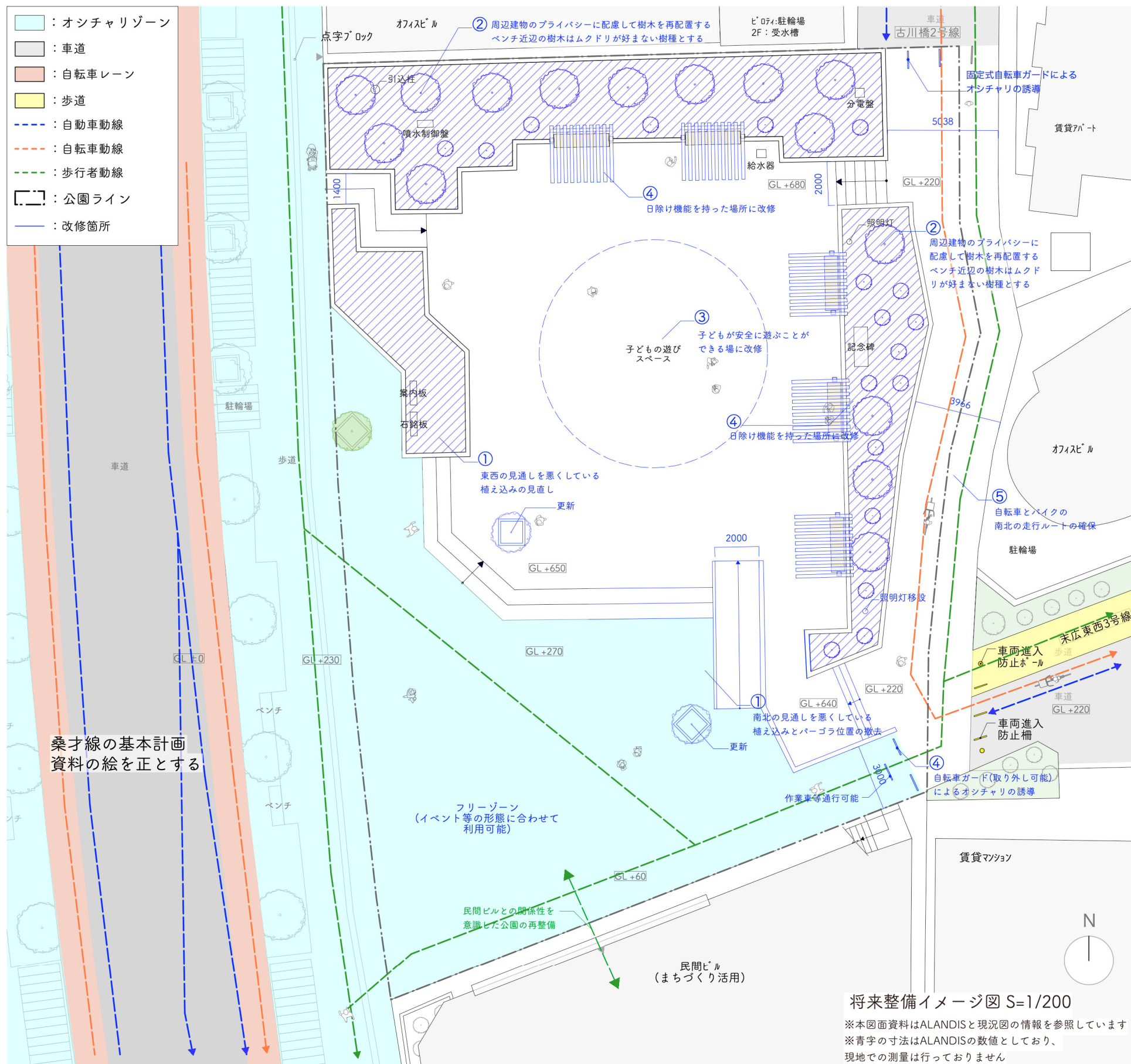


Point 8

既存の高低差を活かした空間構成



2 | 計画図面



07 整備スケジュール

令和5年5月に「古川橋駅周辺地区まちなかウォークアブル推進基本構想」を策定。同構想に基づき、令和6年11月に社会実験「PLAY FURUKAWABASHI Vol.2」を実施した。その結果を受け、本計画をとりまとめた。今後は、エリアのステークホルダーとも連携し、地域ニーズ等を確認しながら、実施設計・工事を旨す。

令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度以降
		↑ 社会実験 「PLAY FURUKAWABA SHI Vol.2」の 実施	「古川橋駅南広場 等再編PJ基本計画 IIIサン・ジョゼ広場 編」の策定※	↑ エリアのステーク ホルダーとも連携 し、地域ニーズ等 を確認しながら、実 施設計・工事を旨す
「古川橋駅周辺地区ま ちなかウォークアブル推 進基本構想」の策定				実施設計・工事 (予定)

※古川橋駅周辺地区まちなかウォークアブル推進基本構想に示された4つのプロジェクトと合わせて策定